

# 参考資料

## 【授業の様子】

1・2回目にデザイン・シンキングの知識・技法を経営戦略とデザインの立場からレクチャーした後、工学部・農学部・芸術学部の各分野から最終テーマにつながるような研究活動をしている教員からの講義で知識をインプットしていきました。これらの知識と学生自身の既知の情報等を用い、デザイン・シンキングをトレーニングし、現在は最終課題に向けて準備を進めています。



### 【工学部・農学部・芸術学部の担当講師】

**工学部：**岡田 浩之（人工知能ロボット）、小酒井 正和（経営戦略/IT マネジメント）、斉藤 純（持続可能なエネルギーシステム）、塩澤 秀和（VR/AR）

**農学部：**石川 晃士（農学国際協力）、小野 正人（昆虫機能利用学）、肥塚 信也（植物生理学/分子育種学）、田淵 俊人（園芸植物学[野生種トマト栽培]）

**芸術学部：**赤山 仁（CG アニメーション）、椿 敏幸（陶芸/工芸教育）、橋本 順一（教育工学/デザインシンキング）、藤枝 由美子（現代美術/日本画）

## オムニバス講義の例



トマト野生種の種子保有数世界一を誇る農学部。専門の農学部田淵教授がトマトの変遷をもとに、原種実物を紹介。原種の掛け算が新たな品種をつくることを力説しました。



工学部教授で、先端知能・ロボット研究センター主任の岡田教授が、**Society5.0** で実現するであろうAI×ROBOT×COOKINGについて、現況と近未来について解説しました。



陶芸が専門の芸術学部椿教授が食と器の歴史考察から西洋と日本の器に対する考え方の違いを見ながら、日本人の伝統的な食文化・器と食事の関係性について解説しました。



発展途上国で開発コンサルタントとして、現状を目の当たりにしてきた農学部石川准教授が、世界の食糧事情・食糧供給のバランスなどを解説しました。



工学部の斉藤教授は再生可能エネルギーと資源循環型エネルギーを組み合わせた次世代の車両開発についてレクチャー後、玉川大学が開発した世界初のマグネシウム空気電池と太陽光で走るハイブリッドソーラーカーに試乗しました。



自由表現だけに「難解さ」を感じることも多い現代美術を、芸術学部藤枝教授は自身の作品を紹介しながら、各作品の表現意図と楽しみ方についてわかりやすく解説しました。

## 【学生の様子】

グループワークでは、各学部生が必ずメンバーとして入るようチーム設計を実施。「相手の意見を否定しない」「積極的に意見する」といったグループワーク上のルールのもと、学生は協同学修に取り組んでいます。当初はぎこちない雰囲気でしたが、だんだん「自分の意見を積極的に言わないと相手に伝わらないし、採用されない」ということを理解し、積極的に発言をするようになりました。「相手の意見を否定しない」というルールが学生に浸透しており、「それいいね!」「こういうのはどう?」という声が授業中飛び交っています。



### ＜グループワークの一例＞

第3回の授業では、「どのようなトマトを創造するか?」をテーマに各自が議論を交わしました。トマト特有の青臭さがないトマト、完全栄養食のトマト、食堂で自由にとれるように栽培してはどうかなど意見が挙がっていました。



第6回の授業では、「AI×ROBOT×COOKING」に合致した提案をという課題に取り組んでいました。プロジェクションマッピングを活用して、学食の雰囲気を変えるとか、自動で食材の状況を管理し、食品ロスを減らすなどの提案が出てきました。

## 【参加学生の内訳】 受講生 29名

### 工学部…7名

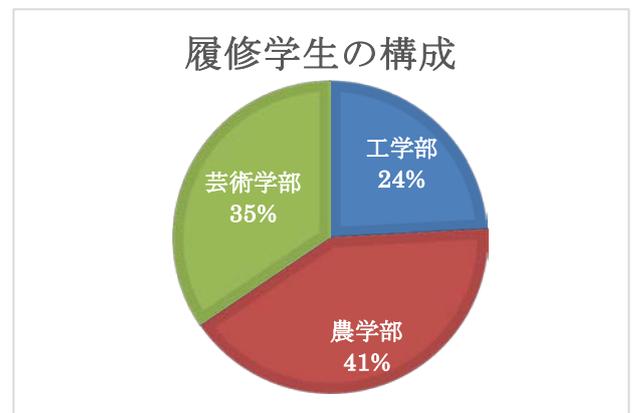
情報通信工学科 3年生 2名  
ソフトウェアサイエンス学科 4年生 2名・2年生 1名  
エンジニアリングデザイン学科 2年生 2名

### 農学部…12名

生産農学科 3年生 5名  
環境農学科 3年生 4名  
先端食農学科 3年生 3名

### 芸術学部…10名

パフォーミング・アーツ学科 4年生 2名  
メディア・デザイン学科 4年生 4名・3年生 4名



## ＜学生の声＞

芸術学部学生「他学部の学生と一緒に学ぶことは新鮮な気持ちで楽しいです。先生方が新しい授業にかける意気込みもひしひしと感じており、この授業を通して自分がどこまで成長できるかが楽しみです」

工学部学生「自分のアイデアをカタチにしてアウトプットしていくこの授業のスタイルが気に入っています。しかし、頭に思いついたアイデアを言葉で他人に理解してもらうことの難しさも実感しています。」

農学部学生「自分の専門分野以外について視野を広げることで、専門分野でのイノベーションを生み出す力を得られるのではないかと考え、この授業に参加しました。最初は戸惑いもありましたが中盤になりようやく慣れました。グループごとのディスカッションでは、もう少し積極的に自分の意見を伝えていきたいです。」

以上